

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	園芸学専攻	実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング
科目名称 [英語名称]	環境保全園芸学特別実験 [Advanced Experiments in Sustainable Horticulture]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	642341	授業形態	実験	単位数	12	配当学年	1-2年次
教員氏名	山口 健一			学位授与の方針 との関連	修士課程DP1,2		
授業概要	環境保全園芸学特論Ⅰ、環境保全園芸学特論Ⅱ等の講義や環境保全園芸学特別実験等で習得した知識をもとに、特別演習Ⅰに引き続いて、環境保全園芸学に関する高度な研究の実例を学術論文・書籍等(英文)を教材として議論し、海外も含めて専門分野の背景や手法、現状を理解することを目的とする。【知識・技能の育成】【課題探求能力の育成】						
関連する科目	並行して履修：環境保全園芸学特論Ⅰ・Ⅱ、環境保全園芸学特別演習Ⅰ・Ⅱ						
授業の進め方と方法	受講生が予め合意した研究課題について、関連する知識を得ながら研究手法を修得する。修了前に学会等研究報告を終了して修士論文を完成させる。本授業では、大学院生と指導教員ならびに研究スタッフがディスカッションしながら、問題解決型の体験学習とし、受講生のプレゼンテーションを取り入れて行う。						
授業計画	<p>授業は概ね以下の内容で進行する。</p> <p>01- 08. 授業の進め方 受講生の課題を決め、研究方法について学ぶ。</p> <p>07- 16. 共通基礎的手法の習得[1] 園芸植物(野菜・果樹・花き)の高度な取り扱い手法を学ぶ。</p> <p>17- 24. 共通基礎的手法の習得[2] 雑草の取り扱いについて深く学ぶ。</p> <p>25- 32. 共通基礎的手法の習得[3] 外来植物の取り扱いについて学ぶ。</p> <p>33- 40. 共通基礎的手法の習得[4] エンドファイト微生物の取り扱いについて学ぶ。</p> <p>41- 48. 共通基礎的手法の習得[5] 植物と微生物の相互作用の解析法について学ぶ。</p> <p>49- 56. 研究中間報告/学会発表(プレゼンテーション・グループディスカッション) 研究結果の取り纏め及び学会発表の手法について学ぶ。</p> <p>57- 64. 個別高度手法の習得[1](問題解決型学習) 個別の課題ごとに植物実験手法を学ぶ。</p> <p>65- 72. 個別高度手法の習得[2](問題解決型学習) 個別の課題ごとに微生物実験手法を学ぶ。</p> <p>73- 80. 個別高度手法の習得[3](問題解決型学習) 個別の課題ごとにデータ解析手法を学ぶ。</p> <p>81- 88. 論文作成ガイダンス 学術論文の模擬的作成手順について学ぶ。</p> <p>89- 92. 論文作成[1](体験学習) 個別の課題で学術論文の作成方法を学ぶ。</p> <p>93-108. 論文作成[2](体験学習) 個別の課題で学術論文の修正方法を学ぶ。</p> <p>109-112. 修論研究発表準備(ディベート) 個別の課題で修士論文発表手順について学ぶ。</p> <p>113-120. 修論研究発表/学会発表(プレゼンテーション・グループディスカッション) 修士論文発表を行って質疑・応答方法を学ぶ。</p>						
授業の到達目標	「環境保全園芸学」に関する高度な知識および研究手法について理解するとともに、当該分野における問題解決能力を修得する。【専門分野の高度な知識・スキル・応用力の獲得】						
授業時間外の学修	【予習】予め次回の授業項目をアナウンスするので、図書室等を利用して各自で予習を行う。 【復習】授業ノート及び配付資料を参考に、受講生各自で毎回復習する。 なお、不明な箇所については、必ず授業の前夜又はオフィスアワー等を利用して担当教員に質問し、学びを深める。						
課題に対する フィードバック	授業内で出た質問等については、補足及び理由を付して正答を示す			評価方法	研究報告・学会発表(50点)と論文提出(50点)で評価する。		
テキスト	授業内容に関する資料・論文や参考となる図書を都度配布・紹介する。						
参考書	授業の進展にそって、関連する参考書や資料・論文等を適宜紹介する。						
備考							